

令和7年度 県立竜ヶ崎南高等学校自己評価表

目指す学校像	「すべての教育活動は生徒のために」を基本理念として、一人一人の生徒を大切にしながら、地域や社会の要望に応えられる、誠実で自主的精神に充ちた、創造性豊かな「将来社会に貢献できる人材」を育成する学校。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 落ち着いた環境の中で学習活動を行うことができています。 ○ 教職員の毎朝の声掛け指導を通して、遅刻の防止、身だしなみの改善等の成果が現れている。 ○ キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人を大切にす進路支援体制のもと、生徒の適性にに応じた進路指導を行っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「主体的・対話的で深い学び」を実現し、基礎学力の養成と充実の両立をはかること。 ○ 自己の適性を発見し、将来の進路選択に連動した行動をとること。 ○ 部活動やボランティア活動等に参加し、自己の可能性を広げる行動をすること。 ○ 教育活動における地域や保護者・関係各機関との連携・協働による活動の機会や内容の充実を図り、「18歳成人」社会に対応できる活動が必要となること。 	<p>生徒一人一人が主体的に学習に取り組むための授業改善を進め、基礎学力の向上を図る。</p>	<p>① 「授業改善」を常に図りながら、生徒による授業評価を基に授業満足度3.3以上にす。</p> <p>② ICT環境の活用やパソコンの使用頻度の向上を図り、きめ細かな指導体制の整備と「個に応じた指導」を充実させる。</p> <p>③ 探究的な学習や体験活動等を通じ、持続可能な社会の創り手となることのできるような資質・能力を育成する「協働的な学び」を実現する。</p>	A
	<p>キャリア教育の充実と進路先の開拓を推進し、全ての生徒の進路決定を図る。</p>	<p>④ 人生や社会を見つめる態度を養い、生徒一人一人の興味や適性にに応じた進路選択を支援し、卒業予定者全員の進路決定を目指す。</p>	B
	<p>基本的な生活習慣を身に付け「18歳成人」社会に対応した行動がとれることを目指して生徒の自立を支援していく。</p>	<p>⑤ 制服の着こなしや挨拶の励行を徹底し、社会人としてのマナーを意識させる。時間や期限を守って生活する習慣を身に付け、社会人としての責任や信頼を自覚させる。自ら環境を整え、他人を思いやる精神を学び、いじめのない環境を維持していく。</p>	B
	<p>キャリアパスポートを活用して学校行事における生徒の達成感や成就感を養う。特別活動全般の参加の機会を増やし、内容の充実を図る。</p>	<p>⑥ HR等でキャリアパスポートを活用し、生徒自らが学びを振り返り、将来を見通す機会を増やす。</p> <p>⑦ 特別活動への参加の機会を増やし、参加生徒自身の満足度や達成感を高めることを目指す。</p>	A
	<p>生活体験や社会体験を通して、社会の変化に適切に対応できる力を育成する。</p>	<p>⑧ 学校での環境美化や地域社会での体験活動を奨励し、道徳的実践力の育成を図り、社会で生きる力を育む。</p>	B
	<p>地域への働きかけを充実させ、地域に支えられる学校、地域を支える人材を育てる学校を目指す。</p>	<p>⑨ 保護者との連絡・連携に努め、教育活動への理解を求める。</p> <p>⑩ 地域社会や近隣市町村の小中学校との連携に努め、地域になくならない学校作りを目指す。</p>	B
	<p>効率的な業務の遂行と労働時間の短縮を目指し、労働の質を高める。</p>	<p>⑪ 校務支援システムの活用と、業務の電子化による効率化を更に進める。</p> <p>⑫ 部活動活動方針に沿った指導体制を確立し、適切な休養と活動時間の確保に努めることで、効率的な活動と成果を目指す。</p> <p>⑬ 「勤怠管理システム」利用を徹底し、在校時間を各自が把握し、働き方改革への意識改革を図る。</p>	A
	<p>通級指導実施のための校内体制の強化と、特別な教育的支援を必要とする生徒の理解促進と指導法の向上</p>	<p>⑭ 校内委員会で情報交換を図り、通級指導の効果的な指導法を共有する。</p> <p>⑮ 生徒一人一人の教育的ニーズ・実態を把握し、合理的配慮や個別の教育支援計画及び指導計画を作成し、実態に応じた指導・評価の確立を目指す。</p>	A

三つの方針		具体的目標	評価		次年度(学期)への 主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 地域や社会の要望に応え、誠実で自主的精神と創造性豊かな感性を備えた社会に貢献できる人材を育てる。	B	B	ボランティア活動を含め、積極的に地域社会と関わる機会を設定していく。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ICT機器の活用による個別最適化した学びや体験的な学びを重視した教育課程の編成と実施により、自発的学習を引き出し、基礎学力の向上と個々の適性に応じた進路の実現を目指す。	B		基礎学力の徹底を図り、「分かる授業」から意欲を高める活動を展開し、進路実現に結びつけていく。
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 社会規範に基づく生活を送り、他者の存在を尊重し様々な活動を通して自らの可能性を伸ばそうと努力し、将来地域に貢献したいと強い意欲のある生徒を求める。	B		本校の教育理念の浸透と地域貢献の機会を設け、Webページを通じて活動を発信する。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への 主な課題
教科 指導	わかりやすい授業を展開するとともに授業改善を常に図る。	授業研究、各種研修等とおして、生徒が「わかる」「できる」を実感する授業を目指す。全職員「生徒による授業評価」の満足度(KPI)3.3以上を目指す。 ①③⑤	B	B	ICT機器の効率的な活用を検討し、生徒の「わかる」「できる」が実感できる授業の質をさらに高める。
		習熟度別指導、少人数指導などニーズに合わせ、生徒に対してきめ細やかな指導を行う。 ①②⑤	B		
教 科	基礎学力の定着を図る。	生徒の実態に合わせて教材・授業内容を工夫し、基礎学力を向上させるとともに、生徒による授業評価を基に授業満足度を3.3以上にする。 ①	B	B	ICT機器を活用し資料提示や問題提示で分かりやすく表示できた。 課外など個別指導を行った。 満足度3.3以上言語の4技能の向上を課題としたい。
		言語の4技能「聞く・話す・読む・書く」それぞれの技能を向上させる。 ①②③	B		
		ICT環境の活用やパソコンの使用頻度の向上を図るとともに、NIEの活用で生きた国語に触れ、学習意欲を向上させる。 ①③	A		
	進路を実現する指導を行う。	社会生活で必要とされる言語技能を身に付けさせる。 ③	B		
		進学希望者の実力を養成する個別指導を計画的・継続的に行う。 ①②③	A		
地歴・ 公民	基礎学力の定着・向上に努める。	生徒の実態に即した教材を精選する。 ①②③	A	A	中学校社会の授業のふりがえりを導入しながら、生徒の思考力を向上させる授業を展開できた。 一方で、ICT機器を活用することはできているが、効果的な活用の検証等まではできていないため、次年度の課題とし
		授業の規律を保つ(忘れ物・遅刻・私語等への指導)。 ⑤	A		
		中学校までの学習内容の確実な定着を図るとともに、発展的な学習内容を取り入れ、生徒一人ひとりの進路実現に対応できる学力を付ける。 ②③④	A		
	生徒の学習意欲を高める指導を工夫する。	タブレット使用やグループ学習など作業的・体験的な学習活動を取り入れ、教科に対する興味関心を引き出し、また、発問を工夫し、生徒自らが考える授業を展開する。 ①②③	B		

		ICT機器を活用し、資料集・現物史料などを用いることで学習内容の理解を深める。 ①②	A	たい。
数学	基礎学力の定着を図る。	義務教育段階の学び直しを適宜取り入れ、基礎的、基本的事項の確認を図り、高等学校学習内容へ切れ目なくつなげる。 ①	A	授業や各テストで学び直しの内容を取り入れ、基礎力定着に役立った。 ICTの活用や各種試験の研究と共有は課題とし、どのようにより良くしていくか考えていく必要がある。
		習熟度による編成、少人数編成による授業を科目の特性に応じて実施し、生徒の理解度を高めるとともに個別最適な学びの実現を図る。 ②	A	
		ICTの活用、教材の工夫等とおして生徒が「できた」「わかった」を実感できる授業を展開するとともに生徒の授業満足度において数学科として3.3以上を目指す。 ①②	A	
	進路を実現する指導を行う。	就職試験問題や医療看護系学校の入試問題等の研究をおして、生徒への学習指導に還元する。 ④	B	
	ICTを活用して、自主学習・家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ①④	B		
理科	自然の事物や現象に見られる基礎的・基本的な原理や法則の定着を図る。	授業内容を基礎的・基本的なものに精選し、基本問題の復習を多く取り入れることで基礎力の定着を図る。 ①	A	観察・実験をさらに取り入れ、事物現象に対する疑問を見出したり、科学的思考を養ったりする場面を作る授業改善をしていく。また、AI技術を含めたICTを生徒に活用させることも課題である。
		自然の事物・現象に関わる資料の分析を通して、自然科学に興味・関心を持たせる授業を展開するように努める。 ①③	B	
		ノートやプリントなど課題の提出や授業のふりかえりを徹底させ、学習内容の理解状況を的確に把握する。 ①	A	
	知的好奇心や探求心を喚起し、自分なりの自然観を持たせる。	視聴覚機器やコンピューター等、ICT機器を効果的に活用し、身の回りの自然現象に生徒が興味関心を持つような題材を用いて授業を行うように努める。 ①②	A	
		実験・観察・実習を多く取り入れ、直接見たり触れたりする機会を増やし、理科の楽しさ・不思議さを体感させる。 ①②③	B	
保健体育	各種運動の合理的な実践を通して、運動技能および、基礎体力の向上を図る。	各種目のスキルテストや体力テストを通して、個人の習熟度や運動能力の成長を確認させる。 ②⑤	B	授業に一生懸命取り組む姿勢が身に付き、一定数の生徒において体力レベルが向上した。 ICT等を効果的に用いて、生徒の興味関心を引き出す授業展開については、来年度に向けての課題である。
		主体的かつ意欲的にスポーツに取り組む姿勢を育てる。 ②③	A	
		各種の運動の実践にICT機器の活用を図り、生涯スポーツ活動に興味・関心を抱かせる授業改善に努める。①②	B	
	公正、協力、責任等の態度を育て、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。	時間やルールを守らせ、自ら進んで活動させる。 ⑤	A	
		生活習慣病予防と運動に関連があることを理解させ、健康の保持、増進に向けた活動を積極的に実践できる資質や能力を育てる。 ⑤	A	
芸術	様々な音楽に親しむ。	様々な国の歌や楽曲に親しみ、特徴を捉えて演奏する。また、ICT機器の使用やグループ活動を通して互いに教え合い、自ら学ぶ力を育む。 ①②③	B	自ら練習に取り組み、考えながら実技練習を進めることが
		ミュージカ、オペラ、クラシック音楽等を鑑賞し、その良さを感じ取り、それらに親しむ心を育てる。 ①⑥	B	

		身近な音楽を取り上げることで興味関心を持ち、幅広い音楽に親しみ、理解できるような授業に努める。 ②⑥	A	難しかったように思える。理解しやすく、生徒ひとりひとりが親しみながら取り組めるような授業展開を心掛けていきたい。
	楽器の演奏技術を身に付け、表現する楽しさや喜びを感じとる。	楽器の演奏に必要な基礎知識の定着を図り、楽しみながら演奏に取り組む。 ①	A	
		独奏、またはアンサンブルで演奏することを通して、表現する喜びを感じ取ることができるようになる。 ②	B	
英語	基礎学力の定着と応用力の育成を目指す。 コミュニケーション能力・態度の育成を図る。	学び直しと振り返りに重点を置いた授業を展開する。ICTを活用するなど授業形態の工夫を図るとともに、自己の考えを深める言語活動を取り入れ、交流を通じて思考を広げる機会を充実させる。 ①②	B	年3回の検定を実施することができ、合格者も多数出すことができた。 他方で、教科内の研修や共有には、より一層の充実が求められる。
		教材を吟味するとともに、プリントや学習ノート、ファイル等を適宜活用し、学習効果を高める生徒同士の学び合いを支援する。板書や発問に、生徒の学びを引き出す工夫を施す。 ①②	A	
		外部の検定やコンテスト等を活用し、生徒の学習意欲を喚起する。個々に対応した指導を継続的に行う。 ①③	B	
		教科内での研修や情報の共有を積極的に行い、授業内容の精選と指導力の向上に努める。 ①②	A	
家庭	家庭生活に関する知識と技術を総合的に習得させる。	生徒の実態を十分に把握し、授業展開において無理のない年間指導計画を策定し、個々に合わせた指導を計画的に継続する。 ①②	B	技術に個人差があるため、より個々に合わせた指導ができるよう工夫をしていきたい。 ICT機器の活用の頻度を増やし、思考を広げる機会を充実していきたい。
		分野によってICTを活用するなど授業形態を工夫し、生徒の興味・関心を引き出し、自ら学習する主体的な心を育成する。言語活動を通して、自己と他者との考えを併せて理解を深め、思考を広げる機会を充実する。 ①②③	A	
		課題提出を通じて学習理解度を確認し、理解不足箇所の把握に努め、個々に合わせた指導に活かす。 ①	B	
		実習や学習を充実させ、生活に活かすことができる技術の向上を図る。 ①③④	B	
	自分及び家族の生活の向上を図る態度を育てる。	家庭生活や学校生活での問題点を把握し、授業や家庭クラブ活動を通じて研究的な活動ができるようになる。 ③	A	
情報	情報活用能力の育成を図る。	基本的な情報技術と情報を扱う方法を身につけさせる。 ③	A	知識及び技術にかなりの個人差があるため、より個々に合わせた指導ができるよう工夫をしていきたい。
		情報に関する法規、情報モラルを身につけ、情報社会と人間との関わりについて考えさせる。 ②③	A	
		officeアプリケーションの基本操作を身につけさせる。 ③	A	
		プログラミングを体験し、その考え方を身につける。 ③	A	
	情報の科学的理解と技能・表現力の育成を図る。	適切な情報の整理、基礎的・基本的内容の活用と応用を身につけさせる。 ②③	A	
		情報及び情報技術を問題の発見と解決に、効果的に活用するための技能を身につけさせる。 ②③	B	
		コンピューターにおいて、情報が処理される仕組みや表現される方法を理解させる。 ③	B	
		実践的体験型学習により、情報の理解を促す。 ①	A	
教務	教育課程編成を工夫し、生徒一人一人が主体的に授業に取り組めるようにし、授業時数の確保に努める。	カリキュラムマネジメントの視点から、教育課程を計画的かつ組織的に編成するとともに、本校の抱える諸課題について、検証及び改善に努める。 ③⑧	B	生徒、教員の減少により選択授業、教育課程の適切な編成を検討する。 生徒の効率的なICT活用を促す好事例を基にした実践的な研修を企画する。
		授業の振替を基本とし同一教科内の代理授業など、授業交換を適切に行い授業時数の確保に努める。 ①	B	
	指導方法の工夫・改善を進め、基礎学力の定着を図る。	校内のICT環境を整え、ICTの活用や教材の工夫をとおして、わかりやすい授業の実践、既習事項の学び直し、個別最適化された学びを適時適切に取り入れることで基礎学力の定着を図る。 ①②③	A	
		単元に応じて、タブレットを使用した活動などを積極的に取り入れ「個に応じた指導」に努める。 ①②	B	

	広報活動の充実に努める。	中学生体験入学会や学校説明会などの実施、中学校における本校教育活動紹介、本校Webページの充実、中学校訪問による情報交換等とおして、本校教育活動全般の情報発信を積極的に図る。 ⑨⑩	A	
図書	図書室の整備に努め、環境を整える。	室内の美化に努めるとともに学習室としての機能を工夫し、利用しやすい環境を整える。 ②⑦	B	生徒が借りたいと思うような本の増加に努める。引き続き遠隔授業等のニーズに応えられるよう準備する。
		購入希望調査を行い、希望図書の購入と蔵書量の増加に努める。 廃棄基準に基づいて適切な処分を実施し、購入希望調査に基づいた蔵書を増やす。 ③⑦	A	
	本に親しむ習慣を身に付けさせる。	新刊のPR方法を工夫し、利用率の向上を図る。 ⑦⑧⑨	A	
		授業やHRで、図書室資料が積極的に活用されるよう働きかける。 ⑦	B	
情報	教育DX化の推進	教育DX化の推進に向けて、学校全体のネットワークやICT環境を整備し、効果的な活用方法の提案や教職員の研修を行い、教育現場におけるICTの活用促進に取り組み、学校全体の教育力を高める。 ⑪	A	本年度も引き続きICT機器の整備と活用促進に取り組んだ。次年度も質の高い教育の推進に努める
	情報リテラシー力向上の支援	教職員のICTリテラシー向上のために、適切な研修プログラムを企画・実施し、その成果を評価するとともに、情報化教育に関するアドバイスを提供することで、教職員の情報リテラシーの向上を支援し、より質の高い教育の推進に努める。 ②	A	
特別活動	キャリアパスポートを活用した学校行事によって生徒に達成感や成就感を与え、一人一人の自主性、主体性の向上を図る。	生徒会役員、生徒会幹事が中心となり、各学級・各専門委員会と連携を図りながら、より良い学校行事を自主的に運営できるように支援する。 ⑥⑦	A	花壇プロジェクトにおける担当の負担が大きいので、特別活動部全体で動かすようにするとともに、生徒会役員、生徒会幹事を中心に生徒ボランティアを集い、多くの生徒が関わられるようにする。また、落ち葉掃き運動も実践していく。
		翔南祭やクラスマッチなどの学校行事におけるキャリアパスポートの活用を通して、各自の心に響いた行事の企画・運営を振り返り、自己の成長に気づかせ今後の行事につなげるとともに各自が達成感や自己肯定感を構築できるようにする。 ⑥⑦	A	
	ボランティア活動の推進を図る。	花壇プロジェクトや各種ボランティア活動への積極的な参加を促し、生徒の自主性を育み、より多くの生徒が充実した体験ができるよう努めるとともに、社会参画への意識を高める。 ⑦⑧	B	
	話し合い活動の充実に努める。	ホームルーム活動や生徒会活動における話し合い活動の充実に努め、合意形成の過程を経験させるとともに、生徒同士が互いを尊重し合う温かい人間関係を築けるように支援する。 ⑤⑦	A	
生徒支援	規範意識と基本的生活習慣を身に付けさせる。	服装容儀指導や段階的指導・遅刻指導・登校時の一斉指導を実施して、規範意識や基本的生活習慣の確立を図る。 ④	B	「支援」とは生徒の可能性を信じ環境と関係を整えること。そのために生徒自身の主体性と状況理解に寄り添いながら選択肢を提示する言葉がけを継続する。 一方的な「指導」ではなく「気持ち」の共有から始まる関係を理解し、日常的な「まなざし」「声掛け」を実践する。
		「18歳成人」社会に対応するために、パブリックとプライベートの区別ができる生徒の育成に努める。 ④	A	
		校内巡視をきめ細かく行い、問題行動の未然防止に努める。 ⑧	A	
	自他の生命を尊重し安全に生活する態度を養う。	スマホ安全利用教室や交通安全講話を実施し、自他の生命尊重を意識させる。 ⑦⑧	A	
		自転車点検・バイク実技講習会を実施することで安全運転の心構えや技術を養う。 ⑦⑧	A	
		薬物乱用防止講話や学年集会などを行い、青少年の犯罪防止に努める。 ⑦⑧	A	
保護者・地域との連携	祭礼巡視や交通安全運動、朝の声かけ運動などで、PTA役員・生徒指導委員と連携を図る。 ⑦⑧	A		
進路支援	キャリア教育の視点から進路指導を進める。	進路ガイダンスや進路講演会を実施し、自己理解を深め、将来像をイメージしながら進路選択ができる態度を育てる。 ④	B	生徒の進路希望の多様化に対応できるように、地域の資源を活用した、進路指導が必要である。進学、就職ともに取り
		学習と進路選択の結びつきを明確に捉えられるよう、教科と協力し横断的に進路支援を行う。 ②③	B	
		キャリアパスポートを活用しながら、学習や学校行事の取り組みを、生徒自身が振り返り、これからの生き方を選択できる能力や態度を養い、社会人としての基礎的資質・能力の育成を行う。 ④⑥⑧	B	

		インターンシップや介護福祉体験等、体験型学習の機会を与え、さらに事前・事後指導を通して、生徒が進路決定のイメージを描き、自分の課題として具体的な目標を設定できるよう支援する。 ③④⑥⑧	A	B	巻く環境に恵まれていたというところもあり、早い時期に進路決定をすることができた。上級学校見学や企業見学等においては、事前・事後学習を通して、その意味を生徒につたえることができた。
生徒の進路希望100%の実現を目指す。		マナトレやClassi、基礎力診断テスト等を活用し、基礎学力の育成・定着の支援を行うとともに、資格取得を奨励する。①②	B		
		伝える力(話す力)、受け取る力(聴く力)を含むコミュニケーション能力を育成するために、プレゼンテーションや作文指導、面接指導等を学年と協力して行う。 ②④⑥	B		
		地域社会との連携に努め、地元企業の求人開拓を行い、生徒に最新の情報を提供する。 ⑨⑩	B		
		多様化する入試制度について、教員・生徒が仕組みを理解し進路活動できるよう支援する。 ②④	B		
保健厚生	健康で安全な学習環境の整備に努める。	施設・設備等の安全点検や環境衛生検査を定期的に行い、安全教育を推進する。 ⑧	A	A	環境衛生管理を徹底し、安全な学校環境の維持に努めた。また、学校医およびスクールカウンセラーとの密な連携により、生徒の健康情報共有と協議を強化することができた。特に心身の不調を抱える生徒への早期介入および継続的なサポート体制の強化を実現した。
		日々の掃除を通し学習環境の整備と美化意識を高める。また、清掃活動において重点をおいた取り組みができるよう努める。 ⑤⑧	A		
		避難訓練等を通じ自己危機管理能力を身に付け、非常時に適切な行動が取れるようにする。 ⑧⑨⑩	B		
	健康教育を推進し、健康に生きる知識と自己肯定感を育てる。	健康観察と欠席状況把握を徹底し、生徒の心身の健康に必要な保健指導や健康相談活動を行うように努める。⑤⑨⑩ 感染症予防教育・対策に努め、生徒自ら行動できるよう習慣付けを目指す。 ④⑤⑧⑨	A		
スクールカウンセリングの活用をより広め、生徒の精神的ケアや自己肯定感の育成に努める。また、スクールカウンセラー、SSW、関係機関等と連携を図り、チームでの生徒支援を展開する。 ④⑤⑨⑩⑮ 専門家による性に関する講演等を実施し、性に関する正しい知識を習得させるとともに自他を尊重し相手を思いやる心を育てる。 ⑤		A			
渉外	学校・保護者・地域との関係強化に努める。	案内文書等を工夫し、行事に親しみを持たせる。 ⑨	A	A	行事の案内文書をクラスシーで保護者に直接連絡することができた。 また、広報誌の発行時期を調整したことでタイムリーな情報提供ができた。
		案内文書が確実に保護者の手に渡りよう工夫し、徹底する。(郵送、ホームページ) ⑨	A		
		総会や各種行事への保護者の参加率を高め、内容の充実を目指す。 ⑨	B		
		PTA役員・生徒支援委員会活動の活性化を図り、祭礼巡視、朝の声かけ運動等の行事に職員と連携して活動する。 ⑨	B		
	PTA事業の充実を図る。	広報誌「くすの木」を年2回発行し、学校や生徒の様子を知らせ、情報提供に努める。 ⑨	A		
		校外研修の内容を検討し、参加を積極的に呼びかける。 ⑨	A		
PTA評議員会の円滑で効率的な運営を図る。PTA総会の参加率を向上させる。 ⑨		B			
1学年	基本的生活習慣を身につけ、社会のルール・竜南のルールをしっかり守って生活を送る。	家庭との連絡を密にとり、協力しながら基本的生活習慣を身に付けさせる指導に取り組む。 ④⑧⑨	A	A	多くの生徒が基本的生活習慣を身につけてきている。一方で遅刻の回数を重ねていつている生徒もいるため、全体への指導はもちろん個別の指導を継続していきたい。 また、ネクタイリボン忘れをする生徒がいまだにいるためそちらにも注意していきたい。 周りへの思いやりを持って
		服装容儀指導と日常生活指導を通して身だしなみを整える習慣を身に付けさせる。 ④⑤⑧	A		
		授業や生徒指導を通してルールを守ることの意義について指導に取り組み、正しい判断力に基づいた自己管理能力を身に付けさせる。 ④⑤⑧	B		
	社会に出るために必要な基礎学力を身に付ける。	生徒の実態に応じた授業を行い、個々の能力の確実な進歩を図り、授業の改善を図りながら、計画的に基礎学力を向上する。 ①②	A		
		授業を受ける態度が適切であるよう指導する。 ①②	A		
		各種検定等の資格取得を奨励し、意欲的な生徒には課外等で指導する。 ③④	B		
	互いの特徴を認め合い、周りの人と助け合うことができる人間関係を築く。	清掃活動や部活動、学校行事に積極的に参加させ、周囲と協力しながら活動する体験を通して、思いやりの気持ちや助け合いの気持ちを育成する。 ⑤⑥⑦⑧	B		
一人ひとりが個性を持っているという事を日ごろの授業や学校行事等で指導し、互いの特徴を認め合うことができる人間関係が築けるよう、援助する。 ⑤⑧⑮		A			

		日々の生活のなかで意識的に関わることで、好ましい人間関係が築けるよう援助する。	⑤⑮	B	行動しており、人間関係も移り変わりがある中でより良い方向へ進もうとしている姿が見られる。そういった生徒を継続してサポートしていきたい。
2 学 年	基本的な生活習慣を身につけ、社会のルール・竜南のルールをしっかりと守って生活を送る。	遅刻・欠席指導の徹底を図るべく、家庭との連絡を密にとり、協力しながら基本的な生活習慣を身に付けさせる。	④⑤⑨	B	あいさつ、身だしなみは身に付きつつある一方で、遅刻や欠席が目立つ生徒もおり、次年度も引き続き正しい生活習慣を身に着けるための指導を次年度も続けていきたい。 進路についてのより具体的に考える生徒も増えてきた一方で、基礎学力の向上に関しては課題があるため、今後も継続して指導していきたい。 学校行事等を通してクラスの団結力を強めていき、学年全体が良い雰囲気となるよう、今後も指導を継続していきたい。
		服装容儀指導と日常生活指導を通して身だしなみを整える習慣を身に付けさせる。	④⑤	A	
		正しい言葉遣い、聞く姿勢、挨拶がしっかりとできるよう指導する。また、ルールを守ることの意義について指導に取り組み、正しい判断力に基づいた自己管理能力を身に付けさせる。	④⑧	A	
	進路実現に向けた基礎学力の向上に努める。	日々の授業の大切さを理解させ、自ら積極的に授業に取り組む態度を養う。	④⑤⑮	B	
		生徒の実態に合わせて授業改善を図りながら、授業や定期考査を通じた個々の基礎学力の確実な向上を図る。	①②③⑮	B	
		就職及び進学希望者に対し模擬試験を実施し進路決定に必要な学力を身に付けさせる。また、各種検定等の資格取得を奨励し、意欲的な生徒には課外等で指導する。	④⑥⑮	B	
	豊かな心を育成する。	清掃活動やHR活動、学校行事に積極的に参加させ、周囲と協力しながら活動する体験を通して、思いやりの気持ちや助け合いの気持ちを育成する。	④⑤⑧⑮	A	
		日ごろの授業や学校行事等を通して一人ひとりが個性を持っている事を指導し、互いの特徴を認め合うことができる人間関係が築けるよう、援助する。	⑤⑧⑮	A	
		教員が生徒と積極的に関わることで、好ましい人間関係が築けるよう援助する。	⑤⑮	A	
		インターンシップや講演会等を通して、社会人として求められる資質を育成する。	④⑤⑧⑩	A	
3 学 年	基本的な生活習慣を身につけ、社会に出て通用する力の確立を図る。	服装容儀指導や日々の生活指導を通して、身だしなみを整える自己管理能力を身に付けさせる。	⑤	B	生徒1人1人に寄り添い、家庭とも連携を常にとりながら進路指導を進めてきたことで、多くの生徒の進路希望を実現することができた。 基礎学力を高めることについては、課題が残る状況であったと感じる。学校全体で共有して、今後の教育活動に繋げていきたい。
		場に応じた正しい言葉遣い、挨拶の習慣が身に付くよう指導する。	⑤	B	
		家庭と連携し、基本的な生活習慣や規則正しい生活のリズムを身に付けさせる。	⑤⑨	A	
	基礎学力の向上と進路実現を推進する。	生徒の実態に応じた授業を通して、生徒のコミュニケーション能力、基礎学力を高める。	①②③	A	
		積極的な資格取得に向け、努力させる。	②③	B	
		定期的な個人面談(年間4回)、LHRや総合的な探究の時間、進路説明会等を通して、進路意識の高揚を図り、一人一人のニーズに対応した進路先の希望を実現する。	②③④	A	
	豊かな心を育む。	日々の生活を通して、各々が持つ個性や特徴を認め合い、良好な人間関係が築けるように支援する。	⑤	A	
		部活動、学校行事、学年行事を通して、様々な経験を積み、自主性・創造性・協調性を育む。	⑤⑥⑦⑨	A	
		清掃を徹底して行うことで、勤労や奉仕の心を育む。	⑧	B	

評価の判定基準 A…大変よくできている B…良くできている C…やや不十分 D…不十分